

「魂のこもった」闘い

～ 参議院議員「あだちきよし」誕生 ～

「あだちきよし」を国会に送ろうと支援をしていただいたすべての皆さん、「魂のこもった」活動をしていただき、本当にありがとうございました。素晴らしい結果を出すことができました。



また、連合大分に結集する構成組織、地域協議会の組合員の皆さん、連合大分議員懇談会の皆さんには、悪天候が続く中、2回にわたる緊急「構成組織・地協・単組（支部・分会）」代表者会議の提起を受けて、投票箱の蓋が閉まる最後の瞬間まで全力で闘いぬいていただいたことに敬意を表します。

今回の闘いも今までと同様に「相手候補一步リード」「相手候補やや先行」という見出しが、選挙戦の序盤情勢で報じられました。私たちは、「参院選の17日間は長い」という姿勢を堅持していたことから、「決戦は、折り返しを迎えてから残り4日間」「潮目は必ず変わる」というデザインを描いていました。

結果的に上記のような展開になりましたが、この展開の起点になったのは「あだちきよし」候補、その人の本人でした。



振り返ってみると、ちょうど7月17日（水）、臼杵市民会館で行われた個人演説会での「あだちきよし」候補の演説・決意表明に「今までにないもの」を感じました。

その「今までにないもの」は、翌日の「音の泉ホール」、翌々日の「はさま未来館」、そして、選挙戦最終日の豪雨の中の街頭演説、大分市のファイナル集会、別府市のファイナル集会へと向かうにつれて、候補本人の「魂」が顕現したかのごとく、拡大し、強靱化し、と同時に多くの支援者の皆さんの「魂」も呼応し、相互に感動と勇気を与えるものになっていったように覚えています。

候補と支援者が一体化していき、勝利への道に至る過程だったに違いありません。

かくして、私たちは勝利しました。勝負がつけば、「ノーサイド」です。安達澄参議院議員は、120万大分県民一人ひとりの思いを受けとめ、国事に参画します。

みんなで応援していきましょう。がんばれ！安達 澄！

